

ソーシャル・キャピタルとしての 宗教に関する研究

人間科学研究科

教授 稲場 圭信



特徴・独自性

グローバル化が進む今、現代社会と宗教は重要なテーマとなっているが、稲場研究室では、現代社会の諸問題に真摯に向き合い、宗教社会学や現代社会学の理論をベースに、支え合う市民社会の構築に資する学際的な研究を構想している。

具体的には、学校、公民館、寺、神社、自治会といった「地域資源」と「科学技術」のコラボレーションによる新たな減災・見守りシステム（「たすかんねん」）の構築に取り組んでいる。また、全国の避難所および宗教施設あわせて約 30 万件のデータを集積した日本最大級の災害救援・防災マップ「未来共生災害救援マップ」(<http://www.respect.osaka-u.ac.jp/map/>)を開発し、防災の取り組みを通して、自治体、自治会、学校、寺社・教会等の宗教施設、NPO などによる平常時からつながり、コミュニティ作りに寄与し、災害時には救援活動の情報プラットフォームとなることを目指している。

さらにどのような条件や環境のもとで宗教者・宗教施設が行政や市民と災害時に協力することが可能になるのか、平常時の見守り等で協力することができるのかを問い、科学技術も取り込んだ減災・見守りシステムを産官学の連携によって構築し、それを社会実装につなげようとする研究を進めている（科研費・基盤研究 A「宗教施設と行政と市民の連携による減災・見守り」2019-2023 研究代表：稲場教授）。

社会実装と実用化への可能性

現在構築中のシステム「たすかんねん」では、災害時に、大規模な障害が予想される通常の通信網に代替し、災害下においても、減災・見守りの社会サービスが維持できるものを目指している。



たすかんねん

風力・太陽光発電、蓄電池、通信、LED 電灯、見守りカメラといった機器を備えた独立電源通信装置



未来共生災害救援マップ

寺院、神社、教会などの宗教施設約 20 万件、学校や公民館などの指定避難所を合わせて約 30 万施設をマップにしたもので、インターネット上で無料公開している。



大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI) 基幹プロジェクト

「地域資源と IT による減災・見守りシステムの構築」（研究代表：稲場教授）での共同研究全体イメージ
<http://www.ssi.osaka-u.ac.jp/activity/core/disasterprevention/> 参照

特 許

論 文

稲場圭信、河野まゆ子 (2019) 『『東京都宗教施設における災害時の受入体制調査』報告』『宗教と社会貢献』第 9 巻第 1 号、2019 年 4 月、pp.49-61.

参考 URL

<http://altruism.blog56.fc2.com/blog-entry-287.html>

キーワード

宗教、地域資源、防災、減災、見守り